

VISION



The Brotherhood of St. Andrew Japan, Inc.

《幻がなければ民は墮落する》箴言29章18節

一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
日本聖公会東京教区会館内
3-6-18 Shibakoen, Minato-ku, Tokyo
TEL 03-3436-4325 FAX 03-3432-1696
http://www.brotherhood-st-andrew-japan.org

BSA 会報《季刊発行》

発行人 砂田 郁郎
編集者 萩谷 長生
印刷所 株式会社スコポーション

100周年に向けてスタート

BSA 創立90周年総会・記念礼拝

BSA 創立90周年の第101総会と記念礼拝が昨年の11月25日(土)に行われ、2018年度の活動計画・収支予算案を承認、100周年に向けてのスタートを切った。
総会に先立って午前10時から東京教区会館で評議員会・理事会が開かれた。

最初に開かれた評議員会では、執行部から2017年度事業活動中間報告および第1号議案・2018年度事業活動計画案、第2号議案・同会計収支予算案、第3号議案・理事欠員補充の件について報告および説明をした。
評議員会は審議の結果、いずれも総会への提案を承認した。評議員会の後に開かれた理事会では、評議員会で承認された中間報告および三つの議案を総会に提案することを確認した。

記念総会

午前11時から開かれた総会は、正会員202名中、出席者37名、委任状提出者76名で、これを合わせると113名となり、出席者は過半数である102名を上回っており、総会は成立した。

開会にあたり、砂田会長が挨拶し、「今年はBSA創立90周年であり、ポール・ラッシュ生誕120周年にあたる。記念コン



サートや記念企画展などがキープ協会を中心に開かれている。BSAにおいても本日午後の記念礼拝や2018年春の完成を目指して記念誌の発行を計画している。90周年記念を単なるお祭りとするのではなく、この先の100周年にむけて、BSAはどうあるべきかを考えるスタートの年としたい」と90周年記念の意義を強調した。
続いて総務担当の足立征三郎理事から、2017年度事業活動計画の遂行状況についての中間報告と2018年度事業活動計画の説明があった。
総会での執行部と出席者間の主なやりとりは以下の通り。
―聖公会出版がなくなり、聖公会の文書伝道が不十分になっている。最後の叢書が発行されてから久しく、新しい「信徒叢書」の発行を望む声が仲間たちからも出ている。充実を期待したい。
執行部・支部活動を活発にするために、作ったままになっている「同胞会辞典」を今日の状況に適した

ものに改定して発行することを検討している。

―これまでに展示した叢書は18点である。教会内に展示しているが、次はどんなものを計画しているのか。

―展示ケースをチェックすると、欠本が多い。本来は10冊ずつ展示することになっている。ただ、置いておくだけではダメだ。われわれの教会(横浜教区・林間聖バルナバ教会)では、毎月第1主日を「信徒叢書」の勉強会の日としている。21回を数えるが、出席するためには本を買わなければならない。

―執行部・どこに展示して、誰が管理するのかをしっかりと考えて欲しい。困った時にはBSA本部に相談して欲しい。
続いて2018年度会計収支予算案の説明に入り、財務担当の後藤理事から財務状況全般の説明と「収入では会費納入予定者数を実際よりも少し多めに計上してある。支出では支部活動費やBSA創立90周年記念誌の発行経費を計上した」という説明があった。
第1号議案および第2号議案は、拍手で承認された。
第3号議案は理事の欠員補充議案で、野田徹評議員(清里支部長)を推薦、拍手で承認した。
総会には今年100歳になった瀬川義夫さんが出席、参加者全員が拍手で迎えた。

記念礼拝

午後1時から聖アンデレ主教座聖堂で記念礼拝が行われた。

司式・下条裕章司祭・本部チャプレン、説教・植松誠北海道教区高橋宏幸司祭・本部チャプレン、臨席・武藤六治主教・名誉チャプレン、陪席・三原一男司祭・横浜支部チャプレン、式典長・後藤務理事。



植松主教は、「私は清里で生まれ、BSAと共に育った。今日があるのは、BSAのおかげといってもいい。どの時代にも困難はあった。その中で今日を迎えられることに感謝しよう」と述べた。(内容は2面参照)

なお、新しく大山義幸兄(阿佐ヶ谷聖ペテロ教会)、櫻井彦太郎兄(千葉復活教会)、増田清兄(東京聖アンデレ教会)が入会し、砂田会長から会員バッジを受け取った。

このあと、聖アンデレホールで懇親会が開かれた。懇親会では小室善雄評議員(平塚聖マリア教会

公示

支部長)の提案による初めての試みとして、あらかじめ報告のあった全国10の支部活動をスライドを使って紹介した。(理事・吉松英美)

記

日時 2018年2月24日(土) 15時
場所 東京教区会館3F

議案

第1号議案 2017年度事業活動報告及び会計収支決算(案 承認の件)
第2号議案 次期理事・監事選任の件

BSA・キープ協会共催 青少年キャンプ案内

残雪の清里 自然と触れ合う3日間

期 日 2018年3月26日(月)~28日(水)
場 所 キープ自然学校(山梨県北杜市高根町清里)
対 象 小学校4年生~中学生
募集人員 20名
申込締切 3月6日(火)
参加費用 18,000円+交通費(交通費の半額はBSA負担)
問合せ先 (電話): BSA 本部 03-3436-4325 : キープ協会 0551-48-3795
参加ご希望の方にはBSA 本部から申込み書をお送りします。

清里高原だより 清泉寮ニユース

清里高原は冬が楽しい&お得 冬限定イベント開催中!

清泉寮がある八ヶ岳南麓・清里高原に今年も本格的な冬がやってきました。冬にしか体験できないお楽しみやお得なイベントをたくさんご用意して、皆様のお越しをお待ちしています!

●冬のハイライド

「ハイ」とは干し草のことです。干し草を積んだトラクターの荷台に乗り、牧草地のドライブへ出発!清泉寮すぐ下の広場から、普段は入ることができない牧草地へ向かうコースです。



牧草地からは、富士山や南アルプス、八ヶ岳を見渡す絶景を楽しむことができます。

4月1日までの土日祝日、10時~14時の間で1時間おきに計5回運行しています(荒天時は中止)。所要時間は約10分、お1人様1回500円です。

チケットは清泉寮ジャーニーハットや本館レストランでのお買い物や食事の10%割引券として使えます(1回限り)。

●冬眠ヤマネの特別展示

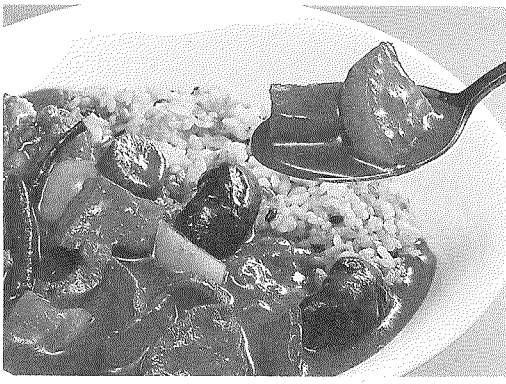
やまねミュージアムでは、生きている本物のヤマネの展示がスタートしています。外界からストレスを受けない冬眠中のみ特別に公開するもので、ヤマネが冬眠から目覚めてしまった場合は展示を休止します。

お問合せ: やまねミュージアム 0551-4813577

●寒いほどお得フェア

その日の気温によって、参加店の対象商品が最大50%も割引になってしまおうというとてもお得なフェアです!

今年の開催は1月13日~2月18日。朝10時にその日の割引率が発表されます。最終日の2月18日は、なんと気温にかかわらず



割引率50%!

清泉寮の対象商品は、清泉寮ソフトクリーム、ファームショップのハーベストカレー、本館レストランの清泉寮カレーなどです。詳しくはWEBサイトをご確認ください。

https://tenkuhaku.com/sanmitoku/

寒いからこそのお楽しみ&お得がいっぱいの清泉寮へ、ぜひお越しください!

冬の清泉寮へのアクセス

スーパにあずき新型車両も

清泉寮周辺は積雪や凍結がある場合もありますので、お車でお越しの場合は冬タイヤやチェーンのご用意が必要です。それらをお持ちでない方や、雪道の運転は少し心配、という方には電車のご利用がおすすめです。

清泉寮最寄りのJR小海線清里駅までは、特急利用で2時間30分。相模湖や甲府盆地からの富士山・南アルプス・八ヶ岳など素晴らしい景色を楽しみながら、ゆったりとお越しいただけます。さらに、

昨年の12月には「スーパにあずき」の最新型車両がデビューしました。カーブ時などの揺れが抑えられ、より快適な乗り心地になりました。また、空気清浄機や車いす対応トイレを導入し、全客席に個別の電源コンセントやPCを置くテーブルなどを設置しています。

新型車両は現在、新宿発7時、10時、16時、18時の便に導入されています。3月17日以降は、全てのスーパにあずきが新型に移行する予定です。

清里駅からはタクシーで5分、時間によっては無料の清泉寮送迎バスもご利用いただけます。

東北教区吉田新主教 按手式

2017年11月30日(水・聖徒アンデレ日)に東北教区主教座聖堂で、ヨハネ吉田雅人司祭の主教按手式・就任式が行われ、東北教区の第八代主教に就任しました。吉田主教は、1982年2月に司祭按手され、神戸教区で牧会をした後、2002年から京都のウイリアムス神学館の館長を務めました。今回の式典にはBSAを代表して倉石昇副会長が参列し、お祝いの品としてアンデレクロスの刺繍入りのスカーフ(ストール)を贈呈しました。



歓迎新入会員

テモテ 櫻井彦太郎
(千葉復活教会・房総支部)

ルカ 野田義文
(真光教会・南町田支部)

マルチン 宮崎道忠
(厚木聖ヨハネ教会)

テモテ 増田 清
(東京・聖アンデレ教会)

訃報

- ヨハンナ 越部桃子(93歳) (三光教会) 2017年10月6日逝去
- パウロ 中村清(100歳) (立教学院諸聖徒礼拝堂) 2017年10月31日逝去
- ポーロ 坂井徹男(79歳) (府中聖マルコ教会) 2017年11月12日逝去
- ユリア 中川真佐子(85歳) (小田原聖十字教会) 2017年12月10日逝去
- ジョイ 植松喜久江(94歳) (恵我之荘聖マタイ教会) 2017年12月26日逝去

編集後記

・今号はBSA 90周年の特集号の趣きとなりました。植松首座主教には超多忙の中、記念礼拝の説教の要旨をまとめていただきました。なお、全文は3月発行予定のBSA 90周年記念誌に掲載します。

・記念行事関連の記事満載のため、連載の「VISION文芸」はやむなく次号送りとなりました。投稿をお願いしたお二方にお詫び申し上げます。

・「清里高原だより」(4面)はキープ協会企画部の齋藤薫氏を中心に毎回取りまとめをお願いしています。ここに改めて謝意を表します。

(N・H)



★一般ご家庭の引越し 事務所引越
★オフィスの引越 のエキスパート!!
★フロアーの移動
★各種展示会セッティング etc..

Gtec 株式会社ギンテック

港区港南3-4-12
TEL 0120-223-008
TEL 3471-5313

ホームメイド・チーズケーキの店

CHEESE CAKE JOHANN
HOME BAKED MADE

和田博子
目黒区上目黒1-18-1
TEL 3793-3503

立教企画グループ

学校業務受託、人材派遣等承ります。

株式会社 立教企画
株式会社 立教オフィスマネジメント
株式会社 立教ファシリティマネジメント
株式会社 立教ライブラリーマネジメント

http://www.rikkyo-planning.co.jp

記念礼拝説教要旨

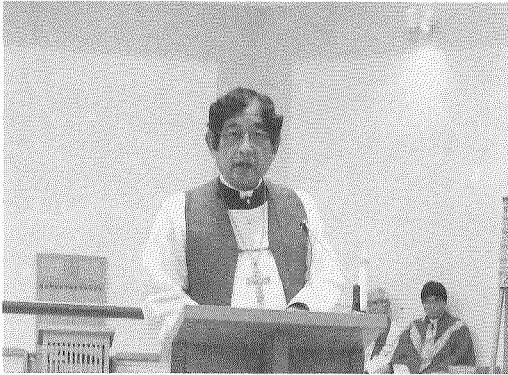
今改めて問う「BSAの精神」

日本聖公会首座主教

北海道教区主教 ナタナエル 植松 誠

「世のなみ、さわげど、み声しずかに、われに従えと、イエス呼びたもう」(日本聖公会聖歌集525番)。私がまだ幼い子ども頃、清里聖アンデレ教会のホールに、毎週水曜日朝7時に響き渡った聖歌です。当時、教会に牧師館はなく、教会ホールの脇の小さな一部屋が牧師一家6人の住宅でした。その部屋の二段式ベッドの上段に4人の子どもが寝ていたのですが、その私たちの耳に、「世のなみ、さわげど、み声しずかに・・・」の声が聞こえてくると、「ああ、BSAの人たちだ」と思いながら起きたことを今も懐かしく思い出します。

何もない貧しい時代でした。水曜日には、村の青年たちや、キープの職員、立教大学から清里に来ていた人たちが、朝6時の聖餐式に出た後、教会のホールでBSA集会をしていたのです。その始まりはいつも「世のなみ、さわげど」でした。そして、ご飯と沢庵、またはパンと沢庵だけの朝食をとって、そこから、それぞれの働く場所に散っていくのを私たち兄弟は見送ったものでした。



20年ほど前、清里に行く機会があり、その際、懐かしい昔からの知り合いの夫婦を訪ねました。昔話に花が咲きました。昔、その中で彼女がしみじみ、「昔は良かった。みんなとっても貧しかったけれど、教会に行くの

が何よりも楽しかった。毎日仕事を終えては教会に集まった。教会は私たちの生活の中心だった」と語り、彼女の夫が「本当にそうだったなあ」と頷いていたのが印象に残っています。昔は良かった。何が良かったのか。今の清里からは想像もできないくらい何も無い清里で、厳しい、貧しい暮らしの中に、その答えは、「教会が生活の中心だった」という言葉の中にあります。心のかたまりが、充実感があるということ。青年たちにとって教会は、まさに生きていくことの最も重要な意味を見いだせる場所だったと思うのです。決して「きれいな事」ではない、生身の人間の営みの中で、汗を流し、語り合い、励まし合っている。祈ることが彼らを教会に引きつけたのだと思います。

幼い私に、「BSA精神」は強烈に焼き付いています。あの当時、清里の教会に集まってきた青年たちの燃えるような情熱と、礼拝堂で祈る静けさは、わたしの生涯にも少なからず影響を与えたと考えざるを得ません。

BSA全体としても、またBSA会員としても、今どのように在るべきかを皆が模索しています。年齢が進むと共に、若かつた時の体力や気力がもう衰えていることを感じて、自分の時代は終わったと思う方もいらっしゃるかもしれません。

私は北海道の主教として、高齢の信徒から現代に生きる「BSA精神」をたくさん学んできました。昔私が幼少の時代、清里で味わったあのBSA青年たちの信仰と情熱を感じる事がたくさんあります。それは単純でも実直な生き方、主日礼拝を大事に守り、自分の言葉で自分の生活の中にある喜び、悲しみ、疑い、迷いを周りの人々に伝えること、それは決して本人たちも宣教をしているとは意識していません。しかし、そこに、「精神」が息づいているのを見ることが出来ます。

BSA 90年を感謝し、これからは主のお導きがあることを信じて歩みましょう。

新入会員を代表して 主のお導きに感謝

房総支部 千葉復活教会 テモテ 櫻井彦太郎

私は、2年前に千葉復活教会に教籍を移し、大学時代の同級生倉石昇兄に出会い、BSAに入会いたしました。私の教会生活は昭和29年母に薦められて、東京の聖アンデレ教会で受洗。当時教会には、同級生の井原泰男司祭(故人)、松岡正治兄、増田清兄がおられ、学生時代の4

年間を過ごさせて頂きました。この度、第101総会、90周年記念感謝礼拝聖餐式、入会式、再宣誓式が、当時とは聖堂や名称が変わりましたが、懐かしい思い出の母教会 聖アンデレ主座聖堂で行われ、BSAに入会したお蔭で、60年振りに再び感謝礼拝に参りさせて頂き、お礼申し上げます。

また植松誠首座主教のお説教が、清里のご幼少時代(昭和27年頃)のお話から始まり、BSA(聖歌)の歌を大きな声で歌われていた時、学生時代(昭和30年頃)の記憶が甦り、清里にスキーに行つた折、清里の早朝礼拝の聖堂に幼い男の子と女の子が居られました。当時幼い子供さん達とお話したかどうか覚えておりませんが、礼拝後の懇親会で主教にお聞きしましたら、その時の幼い男の子は今日お説教された植松誠主座主教でした。60年振りに再会いたしました。

ポール・ラッシュ 生誕記念展示会見学の薦め

連載「BSAと私」(第5回)

聖アンデレ教会 ミカエル 松岡正治

私がBSAに入会したのは昭和29年、立教大学に入学してからです。当時大学には沢山支部があり、最初は第2支部、その後12支部でした。倉石副会長

とは同期でいろいろお世話になりました。先ごろ久しぶりに大学を訪問、立教大学展示館で、2月20日まで開催されているポール・ラッシュ生誕120年を記念する展示会を見学、ポール・ラッシュ博士の知られざる輝かしい業績や、多くの著名人との交流、立教大学での活躍、清里農村センターの開設、昭和6年に米國BSAから独立し、日本聖徒アンデレ同胞会の設立までの努力の数々、昭和8年にはBSAのサマーキャンプを御殿場の東山荘で行い、成功させています。アメリカンフットボールを日本に導入した人として知られています。その人脈の広さは驚くべきものです。吉田首相、ライシャワー大使、澤田美喜氏等々、後年BSAの発展に貢献した人は驚くべき数でありました。

BSAの会員で、この展示会をご覧になっていない人はぜひ見学してほしいと思います。

ポール・ラッシュ博士の口癖は、
Do your best and
it must be first class.

会場では、清里を紹介するビデオが放映されました。説明者はなんと清里に勤務されたことのある武藤六治主教でした。会員のみならず、ぜひ足を運んでください。初心に返り、BSAの再建に力を合わせて参りましょう。

研修旅行報告

ポール・ラッシュの足跡を訪ねて

BSA 90周年の記念行事の一環として11月11日(日)12日(月)の1泊2日の日程で今年度の研修旅行を行った。折しもキープ協会では、日本BSAの礎を築いたポール・ラッシュの生誕120周年を記念する一連の企画が展開中であり、特にその主要行事の一つである記念コンサートは研修旅行の目玉としても組み込まれた。

旅行参加者は会員、賛助会員を中心に総勢36名で、その大半は都内⇄清里間を貸し切りのマイクローバスで往復したが、一部は電車または車を利用して現地まで合流した。

初日、バス組は9時に新宿西口を出発して快晴の中央高速経由で一路清里高原へ。今回の最初のプログラムである記念コンサートの演奏を聴くため八ヶ岳やまびこホールに向かった。

この演奏会を皮切りに、ポール・ラッシュとキープの歴史を学ぶ講座、清里支部の会員等も含めた懇親・わかち合いの集い、清里聖アンデレ教会での聖餐式など、準備されたすべての研修スケジュールを有意義にこなし、第2日の昼食後、清泉寮を後にした。

個々の研修内容や感想については、参加者の方にそれぞれお書きいただいた。(理事・萩谷長生)

ポール・ラッシュ生誕120周年記念コンサート

2017年11月12日(日)、ポール・ラッシュ博士の生誕120周年を祝う記念コンサートが、山梨県北杜市高根町にある「八ヶ岳やまびこホール」で開催された。

このコンサートは、清泉寮と財団法人キープ協会が主催し、山梨県、北杜市や地元企業・団体、アメリカ大使館などが後援、BSAも協賛した。

演奏曲目は、レスピーギの交響詩「ローマの噴水」、メンデルスゾーンの「ヴァイオリン協奏曲ホ短調op.64」、そしてヘンデルのオラトリオ「メサイア」の中から数曲。指揮は矢崎彦太郎氏、ヴァイオリン独奏に和波孝禧氏を迎え、ファイルハーモニックアンサンブル管弦楽団の演奏、合唱は八ヶ岳音楽祭合唱団といずれも地元に関わりのある人たちが中心であった。



演奏会は武藤六治主教の開会の祈りで始まった。武藤主教は「主よ、90年前のこと、アメリカのケンタッキー州出の若いポール・ラッシュを清里の地に派遣し、農村伝道を通じて若者に光と生命を与えてくれたことを感謝しますと祈った。

「メサイア」の合唱も日頃の練習の成果が存分に発揮された力のこもったものであった。ポール・ラッシュ生誕120周年にふさわしいコンサートであった。(理事・吉松英美)

研修旅行に参加して

千葉復活教会

マルタ 西川三和子

この度亡夫が所属していたBSAのバス旅行(11月12、13日)に初めて参加させていただきま

アンコールには、ポール・ラッシュ博士の安らかな眠りを祈るかのようにはフォーレのラシーヌ讃歌が演奏されました。ポール・ラッシュ生誕を記念するに相応しい選り抜かれたプログラムの、演奏者もポールさんへの思いを込めての熱演に一同心を熱くしました。

夕食は清泉寮で、清里ならではの美味しいお食事をいただいた後、場所をポール・ラッシュ記念館に移して、当時の映像や資料を見せて頂きながら学芸員の方のお話を伺い、そのプロモーションビデオを持って、ポールさんと一緒にアメリカでの募金活動をされた廣嶋都留姉や、身近でお働きくださった武藤主教様を通して、清里でのポールさんご様子をお伺いすることが出来ました。

南アルプスの峰々や凛と立つ富士山、清泉寮の背景に響える八ヶ岳、山の持つ崇高さ、力強さ、厳しさ、癒し、天地創造の神を感じずにはいられない清里の自然、この場でなければポール・ラッシュ博士のビジョンは実現しなかったであろうと感じられました。今生きている私たちが、ラッシュ博士の情熱を少しでも受け継いで、若者たちが希望を失うことのないように、最善をつくしていくかなければならないかと思えます。

2日目は、ラッシュ博士が祈りの場とされた聖アンデレ教会で聖餐式を捧げました。私たちの我儘を聞いていただきながらの研修旅行も無事にプログラムを終え、一同「主の祈り」を唱和した後、新宿で解散となりました。

お世話くださったBSAの皆様、記念コンサートを企画・準備してくださった皆様、本当にありがとうございました。



聖パウロ教会

ステパノ 岡野 峻

11月12日からの2日間、BSA主催の研修旅行に参加し大きな賜物を頂いたことを感謝しています。

コンサートはキープ協会の浅田理事長が挨拶で、ラッシュが「村にホールを設け交響楽団のコンサートを通して良質な音楽を届けたい」という希望を実現したと述べておられたように、本格的なオーケストラと合唱団による親しみやすく美しい名曲の数々を聴かせていただきました。特に印象に残ったのは、「八ヶ岳やまびこホール」と名付けられた瀟洒な演奏会場でいる素朴な感じの珍しい建物でした。音の響きも優れポールさんの思いに沿ったものであると感じました。

コンサートの後清泉寮に着き、夕食を済ませて、ポールラッシュ記念館に移動、生前のポールさんに出会う貴重な体験をする時間を過ごしました。今回はここでポールさんの生活と活動そのものに直接触れる機会が得られました。そのための理解を助けていただいたのは2人の女性、一人は米国留学中にポールさんに呼ばれ清里でポールさんのもとで長い間働きを共にされた廣嶋都留さん、もう一人はポールラッシュ記念館の学芸員として邸内を案内頂いた泰英水子さんでした。ポールさんの執務されていた部屋の壁に飾られた写真や額類、机に残されたタイプライターや書類、たばこ、電話帳など生前のままの状態を拝見し、ポールさんが今も座っているかのような錯覚を覚え感動しました。

清泉寮に戻り会食後、武藤六治主教による「ポールラッシュとキープの歴史」についての講話と懇談、誰よりもポールさんや清里について熟知しておられる武藤主教のお話は生き生きと説得力があり、一同話に引き込まれ懇談会でも主教を囲んでポールさんについて様々な思い出話を伺うことが出来ました。翌13日も朝から快晴。朝食後、清里聖アンデレ教会で記念礼拝を捧げ、澄んだ空気と美しい景観に包まれたキープの施設に立ち寄り昼食をとったあと、充実した2日間の旅を終え帰路に就きました。

ポールさんが逝去してから今年で38年、ここ清里にきてポールさんの息吹が感じられるのも不思議ではなく、今回の研修でポールさんの偉大さにふれることができたのは大きな喜びで、BSAとキープ協会の皆さん、そして終始世話役を務めてくださった主事の足立さんのおかげと心から感謝しています。